

# いつも一緒に 富山のペットたち

いよいよ夏本番に向かって暑くなりますね。北陸地方は温度が高くなり、犬や猫にとつてはつらい季節です。

屋外で飼われている犬は、30度以上の外気温の中にいます。室内で飼われている犬や猫の環境は、飼い主が日中、家を留守にして窓を閉め切った場合、40度近くになります。



今年は、電力を控えるようにとの国からの指導もあります。このような高温の環境では、人を含めて動物たちは熱中症になる危険があります。

室温を下げるにはクーラーが一番よいのですが、ここでは電力を使わない暑さ対策を行ってみましょう。例えば、外にある犬小屋のそばに、すだれをつるし、時々、すだれに水を掛けます。水が気化されて、犬小屋の周りの温度がわずかが下がります。

コンクリートの上にある犬小屋は、木製のすのこの上に置き換えます。すのこの上で犬が体を休めることができるように敷き詰めるとういでしょう。室内の温度を上げないために

## 夏の過ごし方

チエコペットクリニック院長 岡本 千栄子 (高岡市大野)



皮膚病の治療のため、薬浴をしているワンちゃん。とっても気持ちよさそう

# 暑さと皮膚病対策を

は、グリーンカーテンを作ってみるのも有効です。きゅうり、ゴーヤー、朝顔などのつる植物を窓の外側に伝わせると、窓ガラスに直接、太陽の熱が当たりにません。

気温が上がると、かゆみを伴う皮膚病は悪化しやすくなるので注意が必要です。例えば、ノミやマダニにかまれると、激しいかゆみを引き起

二には予防薬があります。背中

に垂らすタイプ、スプレータイプ、飲み薬など種類はさまざまです。たくさんノミなどが付いてしまった場合は、即効性のあるスプレータイプがお勧めです。予防薬は必ず動物病院で購入しましょう。

こします。農道や山道、川沿いに生い茂った草の先端にはマダニがいて、犬や猫の目の縁、鼻先、時には耳の中(耳道)にびっしり付くことがあります。ノミは、ほとんどがネコノミという種類ですが、犬はもちろん人にも付きます。

ご存じのように、ノミやマダニ病ですが、かきむしったりする

と細菌感染を引き起こします。ひどくならないためには、最初にシャンプーをして、皮膚を清潔に保ちましょう。ただし、シャンプーの方法を間違えると、皮膚が乾燥し過ぎてしまうため、かゆみがなおさら、ひど

くなります。

シャンプーは、その症状に適したもの動物病院で選んでもらってください。乾燥肌用、脂漏用、殺菌用などがあり、使い分けです。シャンプー後は、皮膚に保湿用の薬を使います。人間で言う化粧水のようなものですね。シャンプーの間も、症状により最初は毎日、その後は2、3日おき、あるいは1、2週間ごととなります。市

販のシャンプーは、刺激が強くて皮膚に合わないものがありますので注意しましょう。

当院では、皮膚病の治療として薬浴を実施しています。犬や猫は、皮膚炎のところに外用薬を塗ると、薬の付いたところを気にして器用になめ取ってしまうことがあります。薬浴は、皮膚炎のために作られた薬剤の入った液でシャンプーをします。皮膚の汚れを取るだけでなく、細菌を除去することもできます。

自宅でシャンプーできる方は、正しい方法で行いましょう。一般的には、シャンプーの液が残らないようによくすすぎ、ドライヤーなどで乾かしてください。

北日本新聞 2011 (平成23年) 7月7日

「いつも一緒に 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。